



お肉はおいしいね！


 夕食の時間です。




 「このお肉おいしいね！」

 「と場で“食肉祭り”があって、
そこで買って来たんだよ」

 「と場って、なに？」

 「と場というのは、牛や豚を
食べられるように、
お肉にするところなのよ」

 「ふーん、お肉屋さんで
売ってるお肉も、
と場からくるんだね」

  わたしたちは考えます 

JR 品川駅東口に、東京都中央卸売市場食肉市場があります。この市場は全国の食肉市場の中心として機能し、「魚の築地」とならび「肉の芝浦」として、広く知られています。

しかし、食肉市場には、牛や豚などのと畜場が併設されており、この生体と畜業務が同和問題と深くかかわってきた歴史や、食肉やと場に関する「ケガレ意識」などから、職業に対して偏見の眼で見られたりするなど、現在もさまざまな問題が起こっています。

例えば、食肉市場で働く人達を、「穢多・非人」といった封建時代の賤称を用いて誹謗中傷するはがきが市場に送られたり、インターネット上に極めて悪質な書き込みがされたりするといった事件も起きています。

また、マスコミや図書でも「と場に引かれる牛の心境」といった比喩でこの仕事を「残酷なこと」、施設を「人の行きたがらない所」「避けて通りたい所」の描写として使われ、大きな問題となるケースが多発しています。

このようなことが、食肉市場で働く人を傷つけ、誇りを持って自らの職業を語ることを妨げているばかりか、自分や子どもの結婚を妨害されるケースをも引き起こされています。

と畜業務は、私たちの暮らしに欠かすことのできない食肉を安心して供給する重要な役割を担っています。そこで働く人をいわれのない差別や偏見によって、誇りを持って生きることを妨げることは、いつの時代にあっても許されない人権侵害です。私たちの身近な人権問題として、この食肉・と場問題を認識する必要があります。